スポーツは世界のことば

asics

株式会社アシックス

発行日／2005年6月
発行所／株式会社アシックス　〒650－8555　神戸市中央区港島中町7丁目1番1
©ASICS　Corporation　2005 6 EN.(TP)　Printed　in　Japan

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH SOY INK

asics CSR REPORT 2005

変わらないもの、変えていくもの。

CORE & CHANGE

株式会社アシックス

対話を通じて、社会と環境への貢献をめざす

皆様のご意見が出発点です

インターネットをはじめとするネットワーク情報技術の急速な発展と拡大により、企業を取り巻く環境は時差や国境を越え「地球」として融合を始めています。私たちの事業も世界各国へ「asics」ブランド商品を届けるだけでなく、世界各国の生産委託先で「asics」ブランド商品を作っていただくという状況へと変化してきました。

そこには、企業市民としての社会やステークホルダーとの密接な関係があり、多くの場面でさまざまな責任も発生してまいります。環境問題はいうまでもなく、労働安全衛生、人権、製品の安全性や品質の問題など、私たちが解決していかなければならない課題は増え続ける一方です。

一企業としてこれらのすべてを解決することはできませんが、あらゆるステークホルダーの方々とのコミュニケーションを通して、相互に理解し合い、対処すべき課題を追求し、その改善を図ることが、これからの企業のあり方と捉えています。

その第一歩として、「ＣＳＲレポート」によってアシックスの取り組みをご報告し、皆様のご意見をいただくことにしました。

アシックスのめざすＣＳＲ

法を守り、倫理性を持つことは、企業として当然の責務です。しかし、単に法を守り倫理性を持つだけでは、ステークホルダーの皆様にご満足いただける企業であり続けることはできません。法律や倫理性をくるみ込んでも余りある企業としての体制や資質を持つことが、今後の企業経営にとって重要なことと捉えています。

また、そのような中で、企業を直接支えているのは社員であり、アシックスの社員が均一な志向や思考に陥ることなく、さまざまな個性をもつ者同士が切磋琢磨し、ユニークな発想による価値ある商品やサービスを生み出すこと、価値あるアイデアがお客様に喜ばれる商品へと昇華していく環境作りもＣＳＲ態勢の中で構築していく課題と考えています。

そのためにも、「アシックスの理念」として、「すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する」を掲げ、技術ともの作りにこだわりを持つことを社員に求めています。世界中のアスリートだけでなく、多くの生活者・消費者の方々からいただいている「技術のアシックス」という冠に責任と誇りを持ち、ご期待を裏切らない企業姿勢を持続させてまいります。

アシックスグループの全社員がすべてのステークホルダーに対して、喜びや感動を共有していただけるようにする。それこそが、経営者の責任であると信じています。

皆様とのよりよい関係構築のために

企業は、さまざまなお考えやご要望をお持ちのステークホルダー、さらに私たちを取り巻く社会に支えられています。それらとの関係を常に適切に保つことが、経営者に求められる大切な責務です。そのためにも、「ＣＳＲレポート」をお読みいただいた皆さま方からご意見をいただき、対話を通して改善し、社会や環境への貢献を進化させていきたいと考えています。

スポーツや健康を通して皆様と喜びや感動を共有し、私たちの商品とサービスを通して企業自体が皆様から愛され、ともに成長し持続していく企業であり続けるために、ご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2005年6月
株式会社アシックス

代表取締役社長

編集方針

株式会社アシックスをよりよく理解いただくことを目的に、
「アシックスCSRレポート2005」を編集しました。

多くの方々が抱かれる「アシックス」のイメージは、私たちのほんの一部分にすぎません。私たちの企業活動やステークホルダーの皆様との関わりを通じて、よりよく私たちをご理解いただくために、それぞれの接点毎に私たちの姿を掲載しました。

このようなかたちで私たちと社会のつながりをお知らせすることは初めての試みです。読んでいただいた皆様からの忌憚のないご意見をもとに、次年度以降もレポートを続けていきたいと考えております。当レポートに挟み込んでありますアンケートに是非ともお答えください。

対象範囲
株式会社アシックス（本社を含む11事業所）

対象期間
2004年度（2004年4月1日～2005年3月31日）

当レポートに関するお問い合わせ先
株式会社アシックス　総務部CSR推進チーム
TEL.078－303－1244
FAX.078－303－2241

アシックスホームページ
日本　http://www.asics.co.jp/
グローバル　http://www.asics.com/index.html

index

アシックスのめざすもの ……3
創業者・鬼塚喜八郎が、スポーツシューズに託した思い

アシックスのモノ作り❶ ……5
トップアスリートとともに記録と勝利に挑む!

アシックスのモノ作り❷ ……7
すべての人に機能的で快適なシューズを

アシックスの軸足 ……9
健全な身体に健全な精神があれかし、と祈るべきだ。

お客様へのアクション❶ ……11
すべてのお客様に価値ある製品・サービスを

お客様へのアクション❷ ……15
安全にスポーツを楽しむために正しい知識を広める

お客様へのアクション❸ ……17
私たちのことを、もっとよく知っていただくために

お客様へのアクション❹ ……18
良き企業市民として社会に、そして世界に貢献する

お客様へのアクション❺ ……19
新しい自分への挑戦を熱い気持ちでサポートする

株主・投資家へのアクション ……21
企業としての健全性を保持するために、
行動規範に基づいたコンプライアンスと
コーポレートガバナンスを心がける

従業員に対するアクション ……23
働きやすい職場をつくる

サプライチェーンに対するアクション ……24
よりよい職場環境の実現を図る

環境保全に対するアクション❶ ……25
地球環境を守るための企業活動を推進する

環境保全に対するアクション❷ ……27
地球環境を守るための製品づくりを進める

私たちの抱える課題 ……29
これからのアシックス

NEXT STAGEへ ……30

会社概要

資本金　23,972百万円（2005年3月31日現在）
従業員　1,258人
事業所
本社※
支社：東京（東京都墨田区）・大阪（大阪府吹田市）・九州（福岡市）
営業所：北関東（さいたま市）・広島（広島市）
オフィス：四国（高松市）
研究所・研修所：アシックスR&Dセンター（神戸市）※
海外支店：台湾
関係会社
国内：15社
海外：15社　（アメリカ・ヨーロッパ・オーストラリア・中国ほか）
※の事業所はISO14001認証を取得しています。

アシックスのめざすもの

創業者・鬼塚喜八郎が、スポーツシューズに託した思い

アシックスのルーツは、戦後間もない神戸の町に誕生した鬼塚商会という小さな靴会社です。社員2名の小さな会社ですが「スポーツを通じて、健全な子供たちを育てたい」という大きな思いを抱いていました。この願いは、アシックスの遺伝子として今に受け継がれています。今回は、創業者・鬼塚喜八郎がスポーツシューズ作りにかけた思いをご紹介します。

●子供たちと、亡くなった友のために

昭和21年、空襲によって焼け野原となった神戸。三ノ宮の交差点では、男たちが荷車を引いてせわしげに行き交い、すすけたガードの上では超満員の列車がゆっくりと駅に入っていく。そんな街に、一人の男が立っていた。当時28歳の彼の名は、鬼塚喜八郎。鳥取で生まれ、姫路の陸軍第十師団に入隊。多くの戦友がビルマ戦線に出征してゆくなか、留守部隊を命ぜられた喜八郎は銃後を守り、終戦を迎えた。戦友たちは前線で敵弾や病に倒れ、ついには南天に輝く星となった者も少なくない。喜八郎の一番の親友も、二度と日本の地を踏めなかった一人だ。終戦から1年が過ぎた今も、喜八郎の心には親友の口癖が残っていた。

「いつかすばらしい日本を作るために、力を尽くしたい…。」

なのに、このありさまはいったいなんだ…。喜八郎は胸が痛んだ。闇市の周辺では、戦災孤児たちが徒党を組んでケンカに明け暮れ、なかにはひったくりや泥棒をはたらく少年もいるという。やるせない絶望感にさいなまれた人心の荒廃ぶりは、目をおおうばかり。「今の日本を見たら、亡くなった戦友はどう思うだろう。このままでは、国の未来を私たちに託して、戦場に若い命を散らせた友に申し訳ない。やり場のない気持ちを爆発させている子供たちを立派に育てるための仕事をしたい」。湧き上がってくる思いは、喜八郎をせき立てる。しかし、何をどうすればよいのか。喜八郎にその答えは、見つからなかった。

鬼塚喜八郎

●探していた答えはスポーツにあった

そんなある日、喜八郎はある人物に進路についての相談を持ちかけた。相手は、姫路師団時代の戦友・堀公平。堀は復員後、兵庫県教育委員会に職を得て、今は保健体育課長の地位にあった。

「子供たちを正しく育て、日本の将来のためになる仕事はないだろうか?」

こう切り出した喜八郎に対して、堀は腕組みをしてしばらく考えてこう答えた。

「なあ鬼塚君。“ もし神に祈るならば、健全な身体に健全な精神があれかし、と祈るべきだ ”という言葉を知ってるか?これはローマの風刺作家の格言だが、青少年の体と心を育てるにはスポーツが一番いいと説いている」

「スポーツか。どうしてなんだね?」

得心のいかない喜八郎に、堀は説明してくれた。

「“ スポーツマンシップ ”というだろう。これは、まずルールを守るということ。それをスポーツでは教える。2つ目は、礼儀を重んじる気持ち。互いが礼節をもってコミュニケーションできてこそ、チームが1つの目的に向かって進むことができる。次に、常にベストを尽くすこと。相手を倒すには、積極的にいろんな技術を編み出さないといけない。それが創意工夫。相手にねじ伏せられたら、忍耐力が大切だ」

「すごいぞ堀君。青少年が立派に育つ要素が全部盛り込まれているじゃないか」

「まだあるぞ。それはチームワーク。いくら自分がホームランバッターでも、ときにはチームのためにバントをすることも必要なんだ。そして最後に、最高の結果を出すために、日頃から訓練をするということ。つまり自己啓発だ。こうしたことを学べるのがスポーツなのだ」

堀の話を聞いているうちに、喜八郎の心に垂れ込めていた霧は晴れ、いつしか感動が湧き上がってきた。人生を賭けて取り組む仕事が、やっと見つかった。

「分かったか」

堀の声で我に返った喜八郎は、堀の目を見て言った。

「堀君ありがとう。僕はスポーツの普及に役立つ仕事をすることに決めた」

しかし、体育教師でもスポーツ選手でもない自分に、何ができるのか。喜八郎の問いに、堀はこう答えた。

「今の日本には、良いスポーツ用品を作る会社がない。靴にしてもズック靴や地下足袋しかなく、みんな苦労しているのが現状なのだ。そこで鬼塚君が、スポーツ靴を作ったらどうだろう。それを履いた少年たちが仲間を増やして、スポーツを発展させるのだ」

「よし、それをやろう!」

●タコの吸盤から最高のシューズが

喜八郎は、すぐさま地元のズック靴メーカーに見習いとして雇ってもらい、靴作りの修業に励んだ。ミシン縫いにゴム練り。子供たちが喜ぶスポーツ靴を作るため、貪欲に技術を吸収した。そして昭和24年3月、鬼塚商会を立ち上げた。やがて社員も加わり、9月には「鬼塚株式会社」として4人での船出となった。

最初に手がけたのは、バスケットボールシューズ。見よう見まねで試作品を作って、ある高校のバスケットボール部の監督に見せたところ、「左右の別もないわらじでバスケットをするのか」と叱られ「バスケットを知らんくせに何事か! 帰れっ!」と怒鳴られた。喜八郎は必死に食い下がり、毎日通ってボール拾いをしながら選手たちの動きを見て、意見を聞いた。「底が滑る」の意見に明石ダコの吸盤からヒントを得た滑り止めを付け、「止まりすぎる」と言われ、溝の深さの調整を重ねた。これが最高の靴になり「あの高校はすばらしい靴を履いている」「あれはどこの靴だ?」と、話題を呼んだ。こうして喜八郎のバスケットボールシューズは“ 鬼塚式タイガーバスケットシューズ ”のブランドで次第に普及していったのだ。

昭和30年代に入るとわが国は戦後の混乱から脱し、喜八郎が心から普及を願った青少年スポーツは、学校教育や社会教育の一環として戦後日本の発展を担う人材の育成に大きく貢献した。

その後、喜八郎は、バレーボールシューズ、マラソンシューズと商品を増やしていく。マラソンシューズでは大阪大学医学部の教授からアドバイスを得ながら、冷たい空気で絶えず足の裏を冷やすことによってマメの発生を抑える画期的な商品を開発。その靴を履いた君原健二選手は、昭和43年のメキシコオリンピックで銀メダルを手にした。このニュースを聞き、喜八郎は自分のことのように喜んだ。

【スポーツの5つの徳】

1. ルールを守る
2. 礼儀を重んじる
3. つねにベストを尽くす
4. チームワークを尊重する
5. 自己啓発を心がける

●夢を育てる若人の力であり続けたい

1977年、同業2社との合併を機に株式会社アシックスへと社名を変更し、今も取締役会長として、忙しい日々を送る喜八郎は言う。

「若い人たちには、はっきりとした生きていく目的、夢を持ってもらいたい。その次は具体的に目標を作って、全力で向かう。どうしたらその夢に近づけるか、いろいろと努力することだ。そうしていると、必ずいろんな人が助けてくれ、いつか必ず夢は叶う。アシックスは、そうしてがんばる若い人たちが夢を育てる力になりたいと思う」

“ もし神に祈るならば、健全な身体に健全な精神があれかし、と祈るべきだ ”喜八郎の心を動かしたこの言葉は、いつまでも、アシックスの歩む道を示す羅針盤であり続ける。

アシックスのモノ作り ❶

トップアスリートとともに 記録と勝利に挑む!

スポーツ工学研究所。ここでは“ 勝つためのシューズとは何か ”を最先端科学によって分析し、さまざまな競技の第一線で活躍する一流アスリートたちのための技術と製品を生み出しています。世界の頂点で戦う選手のために、アシックスは長年の経験と新しい発想を具現化し、製品を通じて応援しています。

●選手の感覚と科学の目

人間の足は、片足28個の骨とそれらをつなぐ多くの靭帯と筋肉によって複雑に成り立っており、スポーツをするときには、その競技の動きに応じてそれらの骨と筋肉が巧みに機能して、千差万別の役割を果たしています。優れたスポーツシューズとは、どんな状態でも選手が最高のパフォーマンスを発揮できるシューズということができます。スポーツ工学研究所では、そうしたシューズ作りをめざして日夜研究を続けています。

たとえば野球を例に「走る」という動きを考えてみましょう。投手の投げた球を打者が打ち、一塁に向かって全力で駆け出す。このとき打者は、体の軸を強烈に回転させたフォロースイングの体勢から、一塁に向かってダッシュ。ベースを駆け抜けるまで、フルパワーで加速を続ける。一方、打球を追う野手は、腰を低く落とした体勢から、前後左右あらゆる方向へフルスピードで飛び出さなければなりません。打者と野手、足にかかる力は方向も大きさも異なり、野手は打球を一塁に投げるために強烈なブレーキをかけると同時に、足は送球動作に入る上半身の堅固な基礎とならねばなりません。スパイクシューズには、こうした動きを支えると同時に、激しい競技のなかで障害から足を守るという機能が求められるのです。

スポーツ工学研究所での研究過程を、大まかに追ってみよう。まず、独自の3次元足型測定器で選手一人ひとりの足型を取り、さらに競技を行う際の足の動きの特性やクセ、あるいは選手個人の好みや要望などについてもデータを採取します。これらをもとに研究所では、過去に作ったシューズの実績も勘案しながら設計。必要に応じて、素材メーカーに「こういった素材が作れないか」といった仕様を出しては、試作してもらった新しい素材を使って試作シューズを製作して選手によるモニターを繰り返します。

新しいシューズ製作の基本は2つ。まずは、使用感に基づいた選手の意見を尊重すること。そして2つ目は、生体力学、人間工学、材料工学や生理学などに立脚した科学の目に基づいて、素材や設計を定量的、定性的に評価すること。この2つがうまくかみ合って、はじめて優れたシューズが誕生することから、スポーツ工学研究所では徹底した選手へのヒアリングと最先端の科学的な分析によって、新しいシューズの開発に取り組んでいます。また、スポーツ工学研究所で得られた科学的な知見は、学会などでも発表し、世界の研究者への情報発信基地としての役割も果たしています。

大リーグシーズン最多安打記録を支える

スポーツ工学研究所で生まれたスパイクシューズの最高峰が、アメリカ大リーグのシーズン最多安打記録262本を達成した、シアトルマリナーズのイチロー選手のシューズ。2004年度にイチロー選手の放ったヒットのうち、シングルヒットは225本。そして、いわゆる“ 足で稼いだ ”内野安打の数は59本を数えます。この数字は、イチロー選手の身体能力の高さを存分に引き出すスパイクシューズの性能を物語っているといえるでしょう。

2004年度のイチロー選手のスパイクは、チタン金具や軽量アッパー、合成樹脂製のプレートを網目状に成型した特別仕様のソールなど、数々の新技術の採用によって、片足重量を2年前のモデルより40g軽い280gにまで軽量化。さらに足の型を正確に反映した「ラスト（靴型）」によってフィット性を向上させるとともに、体感重量をも軽減させています。

アテネ女子マラソンの金メダルを支える

2004年に開催されたアテネオリンピック。各競技で熱戦が繰り広げられたなか、女子マラソンで日本選手としては2大会連続となる金メダルを獲得した野口みずき選手の活躍も、大きな感動を与えてくれました。2時間26分20秒の野口選手の力走を支えて灼熱のアテネを駆けたのは、アシックススポーツ工学研究所で誕生したマラソンシューズです。

マラソンシューズに求められる性能は、まず軽いこと。そして、アッパーについては、足裏の過熱を抑える通気性、汗を速やかに排出する吸・発汗性などが高い次元で問われます。アテネオリンピックに向けた野口みずきモデルでは、こうした点をクリアしたほか、速乾性の中敷や、もみがらを混入してウェットな路面でも滑りにくくした外底、衝撃緩衝性に優れたミッドソールなどを採用しています。

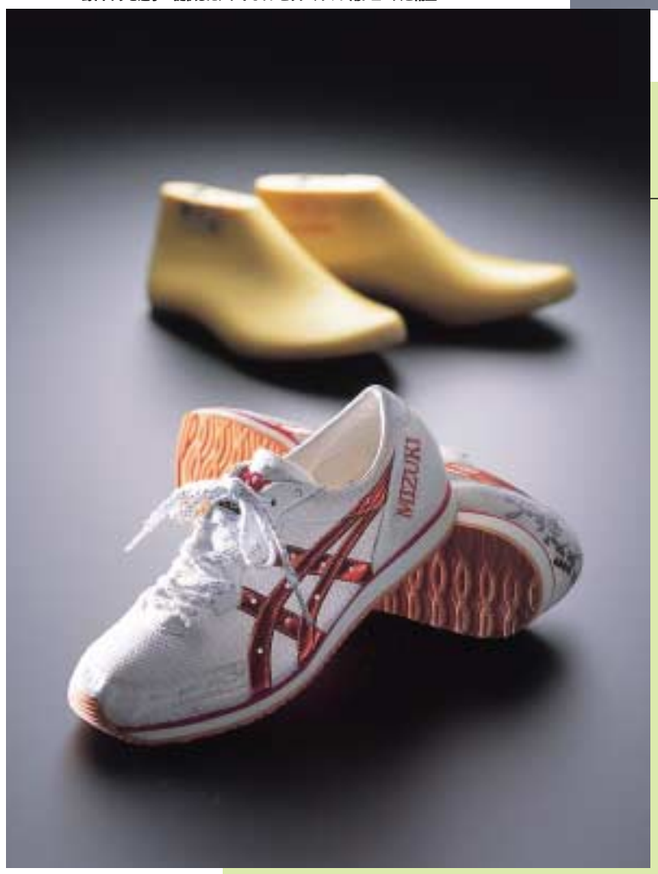
スポーツ工学研究所
機能開発チーム　主事
高本　義国

アスリート用シューズの開発に賭ける 1

イチロー選手の要望に応え、究極の軽さを追求しました

「究極の軽さ」。イチロー選手は、そのスピードを最大限に引き出すために、履いているという感覚を限りなくゼロに近づけた「究極の軽さ」をスパイクに求めています。彼から出されるこのリクエストに、私たちは10年間挑戦してきました。金具を鉄からチタンに、靴底を革からプラスチックに、厚さをさらにより薄く。材料面や構造面からさまざまなアプローチをしてきました。また、伊東浩司選手の陸上スパイクや野口みずき選手のマラソンシューズなど、異なる種目のシューズの開発で培った技術も投入してきました。その集大成が、最多安打記録を更新した2004年のスパイクです。片足280g、およそB5の大学ノート2冊分の重量にまで軽量化を図ることができました。「最初に履いたスパイクは縄文時代のスパイクに感じる」。完成したスパイクをイチロー選手はこう表現してくれました。2005年春からイチロー選手のスパイクと同じ靴底を使ったスパイクが発売されています。ぜひ、皆さんにも「究極の軽さ」を実感していただきたいと思います。

イチロー選手の2002～2005年シーズン野球用スパイクと靴型



野口みずき選手へ提供したアテネオリンピックマラソン用シューズと靴型

アスリート用シューズの開発に賭ける 2

野口みずき選手のゴールシーンに感激しました

2004年のアテネオリンピック女子マラソンで、優勝した野口みずき選手が、ゴール後シューズにキスをしたのをご記憶ですか。実はあのシューズは私が作ったもの。野口選手の足の筋肉のつき方や走り方、それに炎天下を走るアテネの道路条件などを勘案し、特別仕様として製作しました。とくに靴底には、ぬれた路面でも滑りにくくするためにもみがらを練り込むなど、工夫を凝らしています。こうした努力の結果、前回のオリンピック用と比べて、滑りにくさで約17%、通気性で約30%も向上させることができました。野口選手の頑張りに応えることができたうえに、あのような形で靴への思いを示してくれたことは、靴作りのマイスターとして最高の感激でした。

フットウエア事業部
グランドマイスター
カスタムデザイングループ
リーダー
三村　仁司

アシックスのモノ作り❷

すべての人に 機能的で快適なシューズを

アシックススポーツ工学研究所において、トップアスリート用のスポーツシューズ開発によって培った技術は、形を変えてスポーツを愛するすべての人々にお使いいただく商品に活かされています。

2004年　"Marathon de Monaco et des Riviera"

デザインと歩きやすさのバランスを考えた「WALLAGE LADIES（ワラッジ レディス）」

スポーツ工学研究所
機能開発チーム　マネジャー
西脇　剛史

アスリート用シューズの開発に賭ける 3

シューズのスペックを数値化したら、新しい性能の世界が生まれました

一流選手のシューズと、ビギナー用のシューズを比べると、ビギナー用のほうが多くの機能を必要とします。ランニングシューズでは、着地時の衝撃から足を守るクッション性はビギナーにとっては大変重要ですが、トレーニングによって下肢に衝撃を和らげる力が備わっている一流のランナーにとっては、邪魔になるケースもあります。スポーツを楽しみたい人すべてに、最適なシューズを提案し、そのお手伝いをする。この思想がIGS（8ページを参照）の原点です。シューズには、クッション性、安定性、屈曲性、通気性、グリップ性、耐久性、フィット性、軽量性の8つの機能が必要です。これらの機能を、使う人に合わせて最適に設計し、その検証を十分に行ってはじめて、最適が証明されたIGSシューズが生まれます。今では、ランニング、レーシング、バレー、バスケット、テニス、ウォーキングなどにも専用のIGSシューズが開発され、世界中のスポーツを愛する人々に、好評をいただいています。

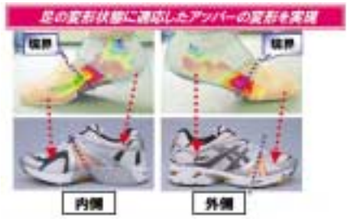
シューズの最適設計理念を確立

スポーツ工学研究所ではコンピュータ解析などで得たアスリート用シューズの開発ノウハウを応用して、一般のお客様向けの安全で快適なシューズ設計の指針を開発しました。これは「コンフォートIGS」と呼ばれ、利用者のレベルに応じてシューズの8機能をバランスよく備えることによって、走る際の地面の衝撃をコントロールして、足のゆがみやブレを抑え、障害の発生も防止する効果を狙っています。さらにウォーキングシューズに展開するため、開発スタッフは、試作シューズを履いて神戸・三ノ宮からアシックス本社までの3.5kmを徒歩で通勤するなど、技術分析だけでなく体感も重視しながら開発しました。現在は、歩行時の快適性と安全性に焦点を当てた「ウォーキングIGS」もラインアップしています。

GEL-KAYANO XI 分解図

極限のフィット性を実現

シューズのアッパーが足の動きに完全にフィットしてこそ、本当の快適性が生まれます。この発想から生まれたのが「BIOMORPHIC FIT」と呼ばれる構造。スポーツ工学研究所で分析した足の動きに対して、シューズの変形の大きな部分と小さな部分の素材や構造を変えることで、動きへの追従性と保護機能を両立させている点がポイント。履き心地はまるで靴下のような フィット感で、長く走っても疲れにくく、楽しく走ることが可能になります。「BIOMORPHIC FIT」を搭載した「GEL-KAYANO」などのシューズは、国内はもとより、機能を重視する海外でも人気が高く、当社の世界戦略の一端を支える技術となっています。



足型を再現し最適なシューズを自動設計

スポーツ工学研究所が、アスリート用シューズを製作する際の足型測定に使っているのが「3次元足型計測器」。これは、レーザーとCCDカメラを利用して、足の長さや幅はもちろん、かかとの傾きなど7項目を測定するシステム。ぴったりのシューズ作りに欠かせない足のデータが取れるこのシステムを、当社はカスタムオーダーシステムの「io（アイオー）システム」と組み合わせました。これにより、「3次元足型計測器」のデータを「ioシステム」に転送し、さらにシューズのソールのタイプなどを選べば、お客様の足にぴったりのシューズを3週間程度でお作りすることができます。

ウォーキングシューズに技術展開

アスレチックシューズの機能性を、タウンシューズに転用したら…。この発想から生まれたのが、ウォーキングシューズ「ペダラ」と「ワラッジ」。とくに女性用の「ワラッジ」は、ヒールタイプのパンプスという女性らしいフォルムに快適な履き心地を実現するための機能を盛り込んだ商品で、従来のパンプスのように足を締め付けたり、路面の衝撃を伝えたり、足が前にずれるといった女性の悩みの解消に努めています。長く履いても疲れにくいことから、多くの働く女性に支持されています。この製品の開発には、スポーツ工学研究所が培ってきた足の動きの解析技術や、ソールの材質配合技術などと並んで女性のスタッフの視点や、ユーザー調査に協力してくださったお客様の意見がフルに活かされています。

アシックスの軸足

健全な身体に健全な精神があれかし、と祈るべきだ。

Anima Sana In Corpore Sano

アシックスのおもい、アシックスのねがい

当社の社名は、創業の精神を込めて、紀元2世紀ごろローマの作家ユベナリスが残した名句「もし神に祈るなら、健全な身体に健全な精神があれかし、と祈るべきだ。」Anima Sana In Corpore Sanoに由来し、その頭文字を社名にしました。

アシックスの理念

- すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する。
- 私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する。
- 健全なサービスによる利益を、私たちと、アシックスを支えてくださる株主に還元する。
- 私たちは一丸となってビジョン達成を目指し、個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する。

CORE & CHANGE

変わらないもの

私たちの精神 ……健全な身体に健全な精神があれかし、と祈るべきだ。
私たちの伝統 ……革新的技術を生み出すパイオニアであること。
私たちの実績 ……事実は何よりも技術の証明をする。
私たちの能力 ……人から技術が生まれ、技術から素晴らしい製品が生まれる。

変えていくもの

私たちのビジョン ……スポーツの世界を核としたポジティブな生活のためのブランドとなろう。
私たちの使命 ……クリエイティブなプロダクトを生み出すことで人々にポジティブなエネルギーを。
私たちのターゲット ……人生に目標を掲げ、毎日向上心を持って、ポジティブな日常生活を求めている人。
私たちの価値 ……スポーツマインド溢れる、快適な生活を提供できること。

変わらないものと変えていくもの。私たちはいつでも、アシックス創業のこの精神を心に刻み、ますます高めていくことを約束します。
また、変革を進める場合にも、常にアシックス精神を意識し続けるよう取り組んでいきます。

アシックスのめざすCSR経営

お客様
私たちは、常にお客様の満足を心がけ、当社が提供する商品・サービスの安全性および品質に十分配慮します。

社　員
私たちは、お互いに個人として尊重され、信頼しあって働ける環境を作ることが重要であると考え、社会の一員としての自覚を持って行動します。

株主、投資家
私たちは株主および投資家の皆様に対して、正しい理解と評価を得るため、適時・適切な情報を提供し、高い倫理観と責任感を持って企業価値の増大を図り、誠実に職務を行います。

創業の精神 ビジョン
世界ナンバーワン企業を目指すという、強い思い（意志）

経営理念 理　念
アシックスのステークホルダー（利害関係者）を切り口に、次の3つの視点からアシックスのあるべき姿を明確化
- 「お客様」の視点から
- 「環境、人々、社会」の視点から
- 「私たち自身」と「株主」の視点から

asics

三つの挑戦と四つの針路（ビジョン実現に向け進むべき方向）

○三つの挑戦
アシックスは世界のすべての人々に、スポーツを核に競技の場から生活の場まで幅広く三つの挑戦＝提案を行う。
① トップ・アスリートへの挑戦（スポーツ提案）
② 競技の場から生活の場までの挑戦（スポーツスタイル提案）
③ スポーツの知的資産を活かした「健康」と「快適」への挑戦（健康・快適提案）

○四つの針路
① 全世代の顧客満足へ
② 日本企業からグローバル企業へ
③ 顧客視点とつくり手視点の相乗効果による差別化へ
④ 知的資産（知的所有権・知識資産・技術資産）蓄積による差別化へ

仕入先、販売先等取引先
私たちは仕入先や販売先、協力会社との関係は相互信頼に基づくべきであると考え、不合理な商習慣には従わず、すべての取引先に対しても対等・公正な取引関係を構築し、公正かつ透明な取引を通じて相互の発展・繁栄に努めます。

社　会
私たちは、私たちの会社が社会と共に存在し、社会の発展なしに企業の発展がないことを強く認識し、反社会的な行為を一切行わないことが重要であると考え、グローバルな企業市民として社会的貢献をめざします。

海外での事業における現地との関係
私たちは、グローバル企業として諸外国の習慣および文化を尊重し、海外における事業展開に際し、現地の法令、風習、習慣に沿ったかたちで事業を行い、現地社会への貢献をめざします。

ARP（アシックス・レポリューション・プラン） http://www.asics.co.jp/corp/arp.html
自主行動基準 http://www.asics.co.jp/corp/model.html

お客様へのアクション❶

すべてのお客様に 価値ある製品・サービスを

スポーツの世界を核にして、お客様に健康と快適な生活を提案することを当社はめざしています。そのために、お客様に競技スポーツ提案、スポーツスタイル提案、健康・快適提案の三つの提案を行うとともに、お客様のライフステージ毎に世代、性別、アスリートのレベルを超えて、満足いただける商品やサービスを提供します。

赤ちゃんのための運動環境

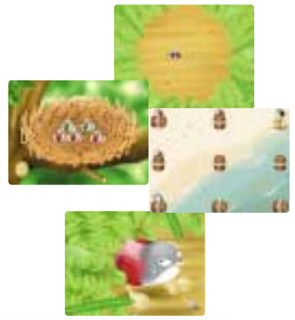
「クローリングトラック®」

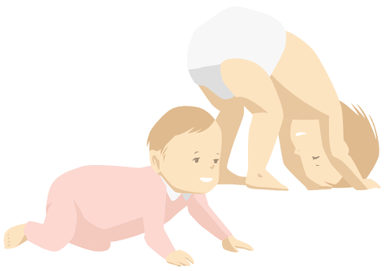
“ はいはい ”を早く覚えるほど、新生児の筋肉はより早くより良く成長し、筋肉の機能をつかさどる脳の発達も早まります。このような運動プログラムを成功させるためには、赤ちゃんにとって理想的な環境を整えることが第一歩です。「クローリングトラック」は、清潔、暖か、滑らか、柔軟、平坦という条件を手軽に実現し、新生児の脳や筋肉の発達を促します。

「靴選びも大事な子育てです」

キッズシューズ「SUKU² スクスク」

運動による刺激は、子供たちの心身を成長させます。動きやすいシューズを履くと自然に運動要求が高まり運動量が増えるといわれています。はだし感覚で走り回れるシューズ"SUKU²"。大切な子供の未来のためにいいシューズを提案します。





アスリートから一般の方々まで

視覚能力トレーニングソフト「天才の眼®」

スポーツシーンでは自分も相手も、そしてボールも動いています。このような環境では、目には通常の視力のほかに動くものをはっきり見る「動体視力」や素早い眼球運動、広い周辺視野、一瞬に状態を把握する「瞬間視」など、「スポーツビジョン」と呼ばれる数々の能力が要求されます。「天才の眼」は、運動選手だけでなく子どもからご高齢の方まで、楽しみながらスポーツビジョンの能力をアップできるトレーニング用のソフトです。また、右脳を刺激することで、成長期の子どもの発達を促します。

子どもたちに健康的で快適な睡眠を

キッズパジャマ「SUYASUYA®」

キッズパジャマ「SUYASUYA」は、数々のプロスポーツ選手用のウエアを開発してきたスポーツ工学研究所が開発した子どもの快眠をサポートするパジャマです。吸湿発熱素材などを採用して汗を発散するとともに、暖かさもキープ。また皮膚への刺激を抑えるために、皮膚の弱い部分には縫製の縫い目がない設計で、動き回ってもお腹が出にくい丈の長いタテ編み仕様です。

学校での生徒たちの生活を支えることも私たちの役目です

スクールスポーツウエア「ECOPET® エコペット®」

振り返ってみると長いような短いような学生生活。そこで一日の大半を過ごす生徒たちにとって、体育の時間はより活動性と快適性が求められます。そのような機能を満たし、さらに、リサイクル素材を用いることで環境に配慮した商品作りをしています。

「7歳を過ぎたらワンテン世代」

キッズシューズ「WAN×TEN® ワンテン®」

小学生になると骨格も完成に近づき、子どもたちはいよいよ一人前の大人に向かってスタートを切ります。「遊び」だって、もはや「スポーツ」と呼べるほど激しくなるこの時期こそ、本物の機能をしっかり備えたシューズが必要です。成長期のお子様のさまざまなチャレンジを応援するシューズを提案します。

お客様の安全、安心、満足を創造

品質管理の遵守

お客様に満足していただける商品作りはCSRの基本です。当社は商品企画から開発、設計、製造、品質管理を経て出荷されるまでの主な段階で、製品安全・品質向上対策の適合状況、および商品・広告宣伝物表示について、PL（製造者責任）審査を実施しています。資材・製品の安全性・品質に関しては、法規制・業界基準・自社基準に定められた試験実施の確認、その判定結果などに基づく指導を行っています。また、有害化学物質に対する独自の管理基準を定めて、運用を進める一方、PL審査の一環として、商品のモニタリングも行っています。

安心して商品をお使いいただくために

商品に関する表示・説明、広告

お客様に正しく、安全に商品を使っていただくための適正で分かりやすい取扱説明書やカタログ、広告原稿などの表示のために、資材調達から廃棄までのすべての工程において関連する部署が情報を共有・連携しています。とくに幅広い世代のお客様にご愛用いただく商品や、専門競技などにお使いいただく商品については、誤使用されないことが一番大切です。安心して正しく、盛り込まれた機能を使っていただくことから、お客様との長いお付き合いがはじまります。

幼児の能力発達を願って

教育トレーニング商品の開発

当社は、身体能力の早期開発と持続性に役立つ商品作りやサービスを通じて、お客様の「生」と「活」に寄与したいと考えています。その一環として、子どもたちの運動・知性・社会面での能力発達を願い、幼児教育の世界的権威として知られるグレン・ドーマン博士と共同で、幼児用教育トレーニング商品を開発しました。

ベーシックトレーニングに適切な機能とデザインに応える

ランニングベーシックウエア「アシックス®」

競技の場と異なり、ベーシックトレーニングの際にウエアに求められる機能はさまざまです。より機能に特化し、短時間で終わることの多い競技シーンと異なり、トレーニングにおいては長時間着用することが求められ、カラーやデザインも重要なモチベーションアップに欠かせません。大切な競技への取り組みへ着用者を支えることも私たちの使命です。

パソコン利用のフィットネス用水着オーダーシステム

パーソナルオーダー水着システム

パソコン上でお好みのスタイルやカラー、サイズなどのデザインがお選びいただけるシステムです。「アシックススポーツスタイルショップ梅田店」内のパソコンの画面で、お客様が直接操作して、基本スタイル6タイプ、無地ベースカラー23種類、プリント柄20型53種類を組み合わせられることで、お客様の細かいご要望を実現しています。

オフ・タイムにリラックスウォーキングを

タウンウォーキングシューズ「pedala® LUDE® ペダラ® ルーデ®」

休日には、足元もリラックスしたい。そのようなお客様のニーズを普段お履きいただいているpedalaから提案したのが「ペダラ・ルーデ」。ウォーキングシューズのクッションを持つカジュアルシューズ。ゆっくりと、自分らしくくつろぐ日にふさわしい、履き心地とデザインでオフ・タイムを楽しんでいただける提案です。

生涯スポーツの情報提供

「生涯スポーツ倶楽部」サイトの開設

年齢や体力、目的にかかわらず、誰もが楽しめるのが生涯スポーツです。当社は、一人でも多くの方々に生涯スポーツの楽しさや意義を知っていただくためにホームページ上に「生涯スポーツ倶楽部」を開設しました。生涯スポーツの普及を通じて、各種地域健康スポーツ団体に協力し、地域の活性化と健康増進に寄与します。

オニツカタイガー直営店のグローバル展開

欧州1号店となるアシックスグループ直営店「オニツカタイガー　パリ」

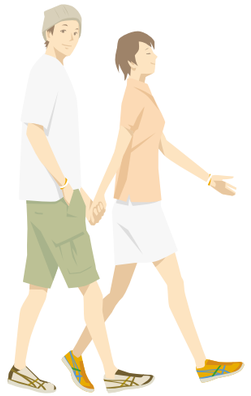
スポーツスタイル提案型ブランドとしてご好評をいただいている「オニツカタイガー」。シューズやウエア、アクセサリーまでカジュアルファッションとは一線を画した提案をおこなっていきます。国内に続き、海外でも直営店展開をスタート。ヨーロッパの街並みに「オニツカタイガー　パリ」、「オニツカタイガー　ロンドン」を出店しました。

裸足のような感覚で歩けたらという女性の願いをかなえたい

女性用ウォーキングシューズ「HADASHIWALKER® ハダシウォーカー®」

マラソンシューズ並みの軽さと、歩行動作に合わせて自然に屈曲し足の筋肉を活性化する靴底の設計により、裸足のような感覚で歩きたいという女性の願いを形としてお届けします。足にあるさまざまな筋肉や関節を無理なく活用して歩けるように軽さと屈曲性を重視して商品化。

多くの女性ユーザーから求められている「見た目すっきり、足入れゆったり」という要望に応え、従来にないすっきりしたシルエットでありながら快適な足入れ感を実現させます。



TARAS BOULBAが作り出す自然との邂逅

アウトドアウエア「TARAS BOULBA® タラスブルバ®」

私たちが「TARAS　BOULBA」をお客様にお届けして2006年で30周年を迎えます。本格的登山から休日のトレッキングまで、自然の中での癒しの空間創造のためにウエアからアクセサリーグッズまで、アウトドアシーンで求められる機能を快適性というフィルターでしっかり捉えお客様に提案していきます。

スポーツ用品のバリアフリー化

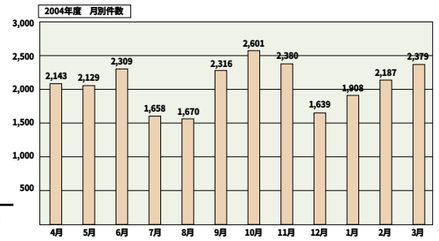
生涯スポーツ「グラウンド・ゴルフ」

身体に障害を持った方にも、いろいろな人との出会いや交流、健康づくりといったスポーツの楽しさを感じていただけるよう、視覚障害者用のグラウンド・ゴルフ用品を研究・開発しました。

視聴覚障害者用音源付送受信機
視聴覚障害者クラブ方向確認クリップ
視聴覚障害者スタートマット補助具
鈴入ボール

●お客様相談室の設置による情報の収集と活用

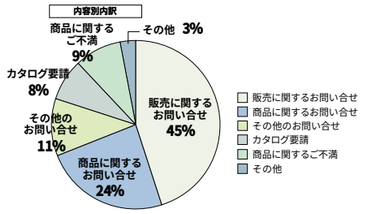
東京・大阪・神戸を拠点に、電話や電子メール、お手紙などによるお客様からの商品や販売などに対するご意見、お問い合わせ等にお答えしています。お寄せいただいたお客様の声は貴重な「生の情報」として社内で共有化し、社員教育や商品開発・改善に活用しています。2004年度は25,319件のお問い合わせを頂戴しました。



全社員に毎月2回提供

「お客様相談室レポート」の配信

お客様からいただいたお申し出をピックアップし、毎月2回全社員にメールマガジンとして配信しています。対処内容や担当者の所感を交えて、より業務改善に役立つような工夫もしています。



不具合商品の現物を展示

「社内品質情報展」

年に2回、全国各支社、生産工場で、お客様から頂戴した不具合商品を社内展示。全社員が見学して今後の開発、改良に向けての意欲を新たにしています。

新商品の開発にも活用

企画開発への顧客ニーズの反映

「お客様相談室レポート」は企画開発部門にも配信され、お客様のニーズにあった企画の商品化にも役立っています。

商品改善の例　「子供のシューズをこの春購入しましたが、片方だけなくしてしまいました。そこで、片方だけ売って欲しいのですが」

お客様相談室でのお申し出毎のお客様の声の集積
→ お客様相談室内でのお申し出内容の検討（不具合品・表示・購入相談・提案）
→ お客様の要望への共感、実現の可能性をもとに、事業部に提案
→ 事業部の企画開発部門での検討
→ お客様相談室へのフィードバック
→ 営業会議での提案
→ 商品化計画
→ 商品化
→ ホームページ等でのご照会

片足販売については、お客様への迅速な対応を図るため「アシックスファミリークラブ」の通信販売で取り扱っています。
ご紹介アドレス　http://www.asics.co.jp/kids/search/onefoot.html

お客様へのアクション❷

安全にスポーツを楽しむために 正しい知識を広める

楽しく安全にスポーツを行うためには、ぜひ知っておかなくてはならないことがあります。とくに自然のフィールドで行うスポーツでは、安全に行動するための知識や技術が欠かせません。当社は、そのような知識の普及に努めています。

●スポーツ関連の啓発イベントの開催

お客様に商品を正しく安全に使っていただくための情報提供は、私たちの重要な役目の一つです。アシックスはさまざまなイベントを通じ、楽しみながら正しい知識を身に着けていただく機会を広げています。

元日本代表選手から楽しく学ぶ

「ジュニアサッカースクール」の実施

サッカーに興味を持つ少年たちに、競技の楽しさを実感しながら正しい基本を身に着けてもらうため、元日本代表を務めたエーススストライカーの永島昭浩氏による「ジュニアサッカースクール」を日本各地で開催しています。2004年度はのべ10会場で実施し、1,500名のジュニアプレイヤーが参加してくださいました。

「走る」「歩く」を基礎から見直す

ランニング・ウォーキングイベントの開催

生活習慣病予防などの観点から、ウォーキングに関心を持たれている中高年層のお客様を対象に、正しい歩き方や正しい靴の選び方などを知っていただくためのウォーキングイベントを実施しています。また、スポーツ店の店頭などを利用して、3次元足型計測器などによるランニングシューズの体感イベントを実施しました。2004年度は、これらのイベントを90会場で実施しました。

靴とのマッチングをチェック

「子どもの足の計測会」の開催

どんなに良い靴でも、サイズや形などが足に合っていなければ機能が活かせず、歩き方や運動量にも影響が出てきます。まして成長期の子どもの場合には、靴と足のマッチングはとくに重要です。当社は全国各地の百貨店などで、足の計測と靴のマッチングのチェックを行うイベントを実施。多くの子どもたちの靴選びに役立っています。

●安全登山普及への取り組み

第二次登山ブームといわれる昨今、自然に親しむ登山者やトレッキング愛好者が増えています。その反面、体力や技術、知識の不足から道に迷ったり、道から転落したりといった事故、あるいは生態系や他の登山者などに対するマナー違反など登山の常識からはずれた行動が増えています。当社は、自然環境のなかで安全に行動するための知識や技術を、体験を通じて習得し、快適な登山に対する認識の向上と普及を図ることを目的に、1996年の「日本百名山連続踏破」以降、毎年トレッキングイベントを開催しています。2004年は「三県境トレッキング」などの全国展開のイベントと、六甲山など身近な山での同行トレッキングや店頭でのトレッキング教室を展開しました。これらのイベントには、当社社員でヒマラヤ登山の第一人者である重廣恒夫が同行し、のべ1,000人を超えるお客様にご参加いただきました。

六甲山

三県境トレッキング　三国峠

参加者の声

重廣さんとご一緒させていただいた1年間の六甲山トレッキングは、私の山歩きを一変させてくれました。これまではコースも主人まかせで、地図は見ないしコンパスもザックにしまいっぱなし。それがこのスクールで現在位置を確認する大切さを知り、最近では休憩時間では必ず地図を見る習慣がつきました。学んだことを生かして、今後もいろんな山にチャレンジし、いつか日本百名山を踏破したいと思ってます。

木村　陽子

自然と歴史を探る山旅

三県境トレッキング

日本全国に三つの都・府・県境にまたがる山は30あります。2004年度はそのうちの19山を、のべ300名のお客様と訪ねました。この活動は2005年度も引き続き行い、文化が行き来した県境の歴史の道をたどるという新しい提案によって、身近なコースの持つ自然のすばらしさを紹介していきます。

三県境トレッキング　笈ヶ岳（おいづるがたけ）

トレッキングイベントのあゆみ

- 「日本百名山連続踏破」（1996年）
- 「NEXT100MOUNTAINS（二百名山登山）」（1997～1998年）
- 「ふるさと名山探訪」（1999年）
- 「ふるさとの富士探訪」（2000年）
- 「大分水嶺の山を登る」（2001～2002年）
- 「歴史峠トレッキング」（2003年）
- 「三県境トレッキング」（2004～2005年）

私たちのことを、もっとよく知っていただくために

製品の研究・開発や製造など、アシックスの活動をお客様によりよく知っていただくため、会社概要やホームページだけでなく、資料の提供や視察の受け入れなどを行っています。

●適切な広報活動

オリンピックがテーマの売り場を開設

阪急百貨店イングス館

2004年のアテネオリンピックイヤーに、オリンピックをテーマに物販と商品展示を目的とした売場を4月21日の阪急百貨店イングス館リニューアルオープン時に新設。過去の商品と有名選手使用シューズの展示を、オリンピック直前の8月初旬まで実施しました。ゴールデンウィーク期間中にはメキシコオリンピックマラソン銀メダリスト君原健二氏を招いて講演会を実施するなどオリンピックムードを盛り上げました。

企業や学校などをご招待

研究所への視察受け入れ

神戸市にある当社のR&Dセンターでは、企業や学校からの見学を受け入れています。館内のスポーツ工学研究所では実験・試験データの収集や動作分析、シューズの機能説明、3次元足型計測などをご説明しています。2004年度は、計23団体の439名の方々が見学に訪れました。

神戸市立本多聞中学校からの見学者

トヨタ関連会社からの見学者（3次元足型計測）

良き企業市民として社会に、そして世界に貢献する

本業であるスポーツ用品作りを通じて、あるいはその他の手段で、社会に対する貢献を進めています。また、災害復興などに対しても積極的な支援を行っています。

●スポーツの普及

自分に合ったスポーツの実践を通じて、ひとりでも多くの人が心身ともに健康に暮らせるよう、当社はさまざまなスポーツの普及活動に力を注いでいます。

人、モノ、資金をサポート

スペシャルオリンピックスへの支援

今年2月26日から3月5日まで長野県で開催された知的発達障害者のスポーツの祭典「2005年スペシャルオリンピックス世界大会（長野）」に対して、寄付金、日本チームへのスノートレーニングシューズとバッグの寄贈、そして22名のボランティアの派遣を実施。大会は20万人以上の観客で賑わい、大成功のうちに幕を閉じました。

スポーツを愛する人たちにスペースを提供

「アシックス・アトリウム」の貸し出し

アシックス本社ビル内にある、広さ1,500㎡、天井高14mの体育館仕様の多目的スペース「アシックス・アトリウム」を、地域のママさんバレーボール大会、ジュニアバスケットボール練習、市民卓球教室などの会場として利用していただいています。2004年度は1,121名の方に利用していただき、1985年の本社ビル竣工以来の利用者数は、のべ287,814名になりました。

2004年度の主な貸し出し

4月	KOBEJC（青年会議所）大運動会	300人
4月	日本空手道研修会	400人
11月	世界ジュニア卓球選手権大会練習	200人
12月	IZAWAクリスマスオープンテニス練習	221人

売上げの一部を自然災害の被災地区に寄付

震災復興祈念Tシャツ

震災10年目を機に神戸商工会議所が企画した「Tシャツプロジェクト」に参画し、復興を祈念したTシャツを発売しました。胸に鳳凰と「many thanks from KOBE」の文字をプリントしたこのTシャツは、国内外から受けた支援に対する感謝の気持ちを表現しています。また、売上げの一部は、昨年相次いだ国内外の被災地に寄付されました。

災害からの復興支援をサポート

スマトラ島沖地震被災地に対する寄付

スマトラ島沖地震および津波による被害地域に対する復興支援として、当社グループ各社および社員で総額1,440万円を寄付しました。国内で集まった義援金は、国際人道支援機関である「ジャパン・プラットフォーム」を通じて、海外では、各地域の共同活動援助組織や児童支援機関を通じて寄付しています。

お客様へのアクション❺

新しい自分への挑戦を 熱い気持ちでサポートする

スポーツを通じて自分の限界をストレッチしようとするお客様を、アシックスは精一杯のエールを込めてサポートしています。

●スポーツ関連のサポートイベントの開催

小出監督の指導で ニューヨーク・シティー・マラソンをめざす

Road to nyc
http://www.asics.co.jp/rtn/index.html

「ROAD TO NYC」の実施

「ROAD TO NYC」。このイベントは、市民ランナーのなかから選抜したメンバーが小出義男監督の指導のもとでトレーニングを重ねて、文字通りニューヨークで開催される「ニューヨーク・シティー・マラソン」に挑むという企画です。前年に引き続いて2回目となる2004年度は、665名の応募者のなかから選ばれた岩村真紀子さん、秋山克巳さん、千葉祥子さんの3名が、5カ月にわたる苦しいチャレンジとその向こうにある栄光のゴールをめざしました。今回は、3人の戦いを軸に「ROAD TO NYC」の舞台で繰り広げられた、熱いドラマをドキュメンタリータッチでご紹介します。

秋山克巳さん

岩村真紀子さん

千葉祥子さん

6月 最終選考会

小出監督の地元、佐倉市・岩名陸上競技場。40名が参加し2日間にわたった選考会が終わりました。前日の監督との面談での熱い自己アピールや、フォームチェックをした5000mで自己ベストに迫るタイムを出すランナーも出るなど、それぞれが走ることへの思いを確認しあった2日間でした。選ばれた3名は、そんなランナーたちの代表なのです。

7月 ボウルダー合宿

デンバー国際空港から約1時間。高地トレーニングのメッカ、ボウルダーに3人は到着しました。宿舎の窓には、見事な山並みの景色。いよいよ小出監督との初の高地合宿が始まります。

順調にプログラムをこなしてきた合宿4日目。ハプニングは、地獄と称される未舗装の林道「マグノリアロード」での練習中に起きました。レースで足を痛めていた千葉さんにドクターストップがかかったのです。

伴走車から仲間に声援を送るうち、突然、彼女の目からあふれ出した涙。「いっしょにゴールしたかった。3人で始めたことだから、ぜんぶ3人でやり遂げたかった…」。そんな彼女を「大丈夫。まず足を治してから、またいっしょに走ろう」といたわる監督と仲間たち。5日間の合宿で壁を乗り越えるごとに、次第に絆が深まります。

自信、課題、連帯感。力を出し切る大切さ。たくさんの宝物を手に入れて、3人はボウルダーに別れを告げました。出発前の成田空港ではブラウスとサンダルだった岩村さんも、帰りの機内ではジャージとランニングシューズに。この変化が、成果を物語っているようです。

励を寄せ書きしたゼッケンを留めてもらうと、準備は完了。ランナーの祭典「第35回ニューヨーク・シティー・マラソン」が、いよいよスタートです。

9月 巨峰の丘マラソン

本番を1か月半後に控えた9月、小出監督が調整のためにと選んだのが、標高差350mという国内屈指の難コースで知られる「巨峰の丘マラソン」20kmレースでした。足の故障のために満足に練習できなかった千葉さんはじめ、監督から指示された練習を続けてきたほかの2人も、不安は隠せません。小出監督の門下生となった誇りとともに葛藤も背負ったメンバーは、力を出し切ることだけを誓い、ゴールをめざして走り始めました。

その結果は、1時間24分34秒で女子4位に入った岩村さんをはじめ、全員が満足のできるもの。「数カ月で、自分がこんな急激に変化するなんて52年間で初めて」と驚く秋山さん。「こんな状態でも自己ベストが出せた。自分を信じよう」と手応えを感じた千葉さん。大きな自信を得て、3人の挑戦はいよいよラストスパートです。

11月 ニューヨーク・シティー・マラソン

11月4日、小出監督の見送りを受け、3人は成田空港を飛び立ちました。アテネ五輪を征したステファノ・バルディーニ選手との出会い。そして「新撰組」のはっぴで世界の人たちとともに思いっきり楽しんだ「国際フレンドシップラン」DAY…。世界のトップアスリートも、車椅子ランナーも、街のジョガーも、同じスタートラインに立ち、同じゴールをめざす。そして200万人もの大観衆から、年齢や性別、肌の色や国籍の分け隔てなく、等しく声援が送られるNYCマラソンはいよいよ本番の11月7日を迎えます。

午前8時30分、スタート地点のスタッテン島は、野外コンサート会場のように人であふれています。上空には何機ものヘリコプター。「これはマラソンというより、お祭りだ」と3人は目を見張ります。着替えをすませ、ザバス・エナジーアップタブを噛み砕き、靴ひもを締め直し、仕上げにスタッフからの激

決戦 そして、それぞれのゴールイン

「12時ジャスト。16マイル付近を、岩村さんが通過」。キロ4分20秒を切るペース。追い込めば3時間は夢ではありません。そして午後1時過ぎ。ゴール前のスタンドに陣取ったカメラマンが、5か月間追い続けてきたチームウエアを視界に捉えました。あと100m。とっさにゴールライン頭上の電光計時に目をやります。2時間59分31秒、32秒、33秒…必死の形相でラストスパートをかける岩村さん。あらゆる言葉を呑み込む大歓声のなか、岩村さん、高々と両手を挙げてゴール!!タイムは2時間59分51秒。

その10数分後。千葉さんのゴールに本部が再び沸きかえりました。喝采の輪の中で千葉さんは涙があふれて止まりません。「痛みはずっと…。でも、走れない時のほうがよっぽどつらかった」。タイムはなんと、3時間16分33秒。自己ベストを18分以上も更新する激走です。

「来た、来たーっ!」。スタッフと岩村さん、千葉さんの拍手に迎えられ、秋山さんもゴール。自己ベストを11分更新する3時間30分25秒の力走。目標の20分台にはわずかに届かなかったけれど、大きな何かを成し遂げた52歳の男が帰ってきました。

ニューヨーク・シティー・マラソンで手にした成果は甘かったり、しょっぱかったり、ほろ苦かったり…。しかし、あの大きな感動をまた味わうために、彼らは走り続けます。

株主・投資家へのアクション

企業としての健全性を保持するために、行動規範に基づいたコンプライアンスとコーポレート・ガバナンスを心がける

CSRを実践する上で、実際の取り組みとステークホルダーに対するアカウンタビリティーは大きな意味を持っています。当社では公正な経営体制の構築とステークホルダーに向けての情報の開示やコミュニケーションを進めてまいります。

社会倫理に合致した行動を

行動規範と自主行動基準

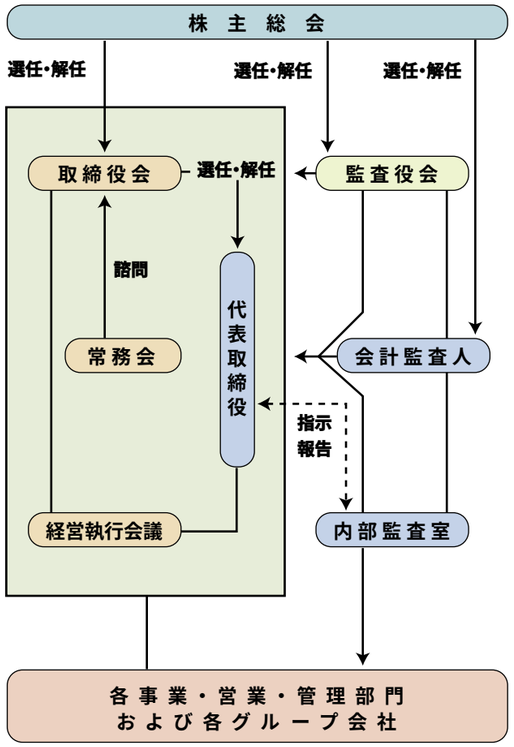
当社では、2003年に当社のすべての役員（これに準ずる者を含む）および従業員が、当社のもつ社会的責任を深く自覚し、あらゆる企業活動の場面において関係法令の遵守を徹底し、社会倫理に適合した行動をとることが当社の健全な発展のために不可欠であるとの認識の下に、従業員が日常の業務遂行において遵守すべき事項を「アシックス行動規範」として定めました。これにあわせて、「アシックス行動規範」を明確にして、当社のすべての役員および従業員の企業活動およびステークホルダーとの関係に適用する行動基準を、「アシックス自主行動基準」として、21項目制定しました。

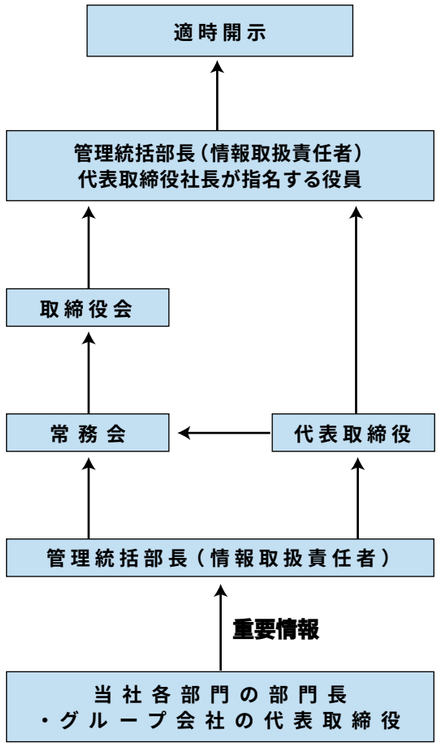
詳しい内容は、ホームページをご覧ください。
http://www.asics.co.jp/corp/model.html

経営活動の透明性を保持

コーポレート・ガバナンス体制と情報開示

企業価値を継続的に高め、株主をはじめ、すべてのステークホルダーからさらに信頼される会社となるために、スピードある透明性の高い経営を実現すべく新しいコーポレート・ガバナンスをめざしています。その中で経営管理体制の整備を行うとともに、企業経営に関する監査機能・内部統制の充実、コンプライアンスの徹底、経営活動の透明性の向上に努め、株主の視点を経営に反映させることを心がけています。





4つの戦略を機軸に取り組みを推進

中長期的な会社の経営戦略

① 連結グループ経営

当社は世界本社として全ての事業活動と、国内および世界の子会社を統括します。

② 事業領域

日本市場は「スポーツ」「スポーツスタイル」「健康・快適」の三つの領域に、海外市場は「スポーツ」「スポーツスタイル」の二つの事業領域に集中します。

③ 市場

日本、米国、欧州の三大市場と新興中国市場を重点市場と位置付け、これらの市場に資源を集中し一層の成長を図ります。

④ 二大基幹ブランド

「アシックス」と「オニツカタイガー」を二大基幹ブランドとします。アシックス・ブランドをコーポレート・ブランドとして「スポーツ」「スポーツスタイル」「健康・快適」領域の基幹ブランドとし、オニツカタイガー・ブランドを「スポーツスタイル」領域に特化した基幹ブランドとして展開します。

海外展開の強化とアテネ五輪がトピック

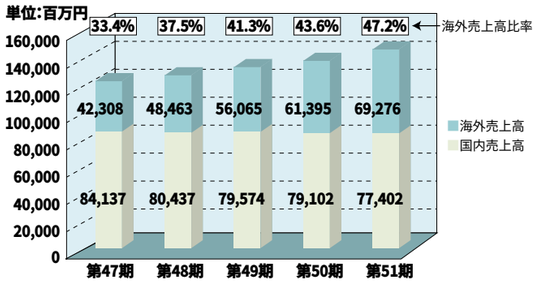
経営・財務情報

2004年は、スポーツ用品業界にとっては、アテネオリンピックの開催や健康志向によるスポーツへの関心の高まりが見られ、このような情勢のもとで、グローバル戦略の一環としてランニングシューズの世界統一モデルを拡充するとともに、「オニツカタイガー」ブランドの拡充を図るべく、欧州一号店となるアシックスグループ直営店「オニツカタイガー　パリ」をオープンするなど、シューズ、ウエア、バッグのグローバル展開を図りました。

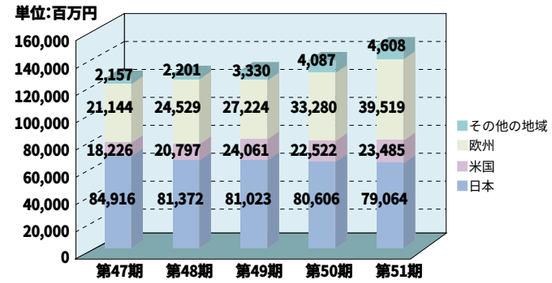
また、アテネオリンピック大会では、マラソンをはじめとする各種競技のトップアスリートなどにシューズおよびウエアを提供し、企業イメージの高揚とブランドの浸透に努めました。

男子マラソンでは、アシックスのウエアとシューズを身につけたイタリアのステファノ・バルディーニ選手が活躍

国内海外売上高推移



地域別売上高推移（外部顧客に対する売上げ）



詳しい財務情報は、当社ホームページの「財務情報ページ」をご覧ください。　http://www.asics.co.jp/corp/financial_02.html

●株主の分布状況

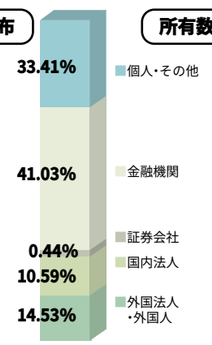
（平成17年3月31日現在）

発行済株式の総数　199,962,991株

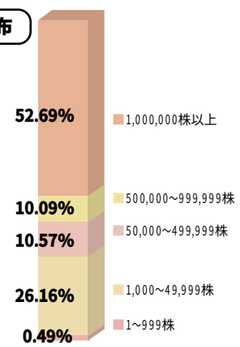
株主数　24,276人

平成17年2月25日付で自己株式を1,400万株消却したため発行済株式の総数が減少いたしました。

所有者別株主分布



所有数別株主分布



働きやすい職場をつくる

企業価値を向上させるうえで、最も他に代えがたい経営資源は人です。当社では「人材」を「人財」と捉え、企業の財産と位置付けています。従業員にとって働きやすく、能力が十分発揮できる職場であり続けるために、さまざまな制度を導入しています。

育児・介護などとの両立を図る

ファミリー・フレンドリー企業表彰を受賞

厚生労働省による「平成16年度ファミリー・フレンドリー企業表彰 兵庫労働局長賞」を受賞いたしました。ファミリー・フレンドリー企業とは、仕事と育児・介護の両立を図る制度を持ち、多様でかつ柔軟な働き方を労働者が選択できるような取り組みを行う企業を指し、ファミリー・フレンドリー企業表彰は、なかでもとくに成果があがっている企業に対して授与されます。

女性の意見を経営に反映

女性社員と社長の懇談会

社会と会社を活性化させるには女性の活躍が欠かせません。そこで当社は、女性の総合職社員が仕事を行ううえで感じていることなどについて、社長と気軽に話し合える場を設けています。この席で出された意見のいくつかは経営にも反映されています。本社・支社の食堂で、2004年度はのべ3回開催しました。

「女性社員と社長の懇談会」

個人の成長と企業の発展を一体化

人財育成制度

当社では、グローバル時代にふさわしい「人財」を育成し、個人の成長と企業の発展を一体化するために、以下のような人財育成制度を設けています。

①社内公募制度:重点的かつ緊急に人財を投入すべき部門・事業の要員を強化または補充する場合に、その人財を社内公募する制度です。従業員にとっては、意欲と能力を最大限に活かすことを目的とし、仕事を通した自己実現の機会を与える制度となっています。

②エントリー制度:社員の自立意識を大切にし、キャリア形成の視点から、自らの意思で異動できる機会を拡大するために、自らの判断で異動希望を会社に登録する制度です。異動希望をエントリーする場合には、業務内容、業務を行う上で必要な保有能力・経験・知識等のガイドラインを参考に、従業員が自らの現状の保有能力・経験・知識などを自己分析し、より現実的なエントリーをします。会社は、そのエントリーを尊重し、定期異動に反映しています。

③ジュニアボード制度:次期経営幹部の育成を主眼におく制度です。35～45歳の中堅の従業員を選抜し、外部機関などを利用することにより、経営幹部教育を実施しています。また、学んだ経営スキルの実習の場として、経営提案・提言を取締役会へ行い、「経営の活性化」に役立てています。

労使間のパートナーシップ

労働組合の活動

労働組合は、会社の持続可能性を高めることが私たちの生活をより豊かで安定的なものとするために必要不可欠であると認識し、さまざまな活動を展開しています。社会貢献活動をより効果的に進めるために「2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会（長野）」において、労使協力のもと22名のボランティアを派遣しました。そのほか、海外ボランタスへの派遣や上部団体が主催するボランティア・サポートチームへの参加、使用済みカード・テレカ・古切手の収集などの諸活動を通じ、社会貢献活動へのきっかけづくりを推進しています。また、キャリアサポート活動として自己発見セミナーや中国研修などによって組合員の自立支援を行い、ライフサポート活動ではリゾート施設の提供や各種共済活動、次世代育成支援など福利厚生の充実を図るとともに、異業種との交流、経営品質アセスメントの推進などを通じ、アシックスの持続可能性の維持、向上に向けた取り組みを行っています。

よりよい職場環境の実現を図る

スポーツ用品の領域において、広範な技術力と独創的なアイデアを取り込んだ商品の提供を行うとともに、CSR（企業の社会的責任）を果たすため「アシックス業務委託先管理方針」を作成し、すべてのサプライヤーの皆様とより良い職場環境作りをめざして力を合わせています。

アジア地域の委託生産先工場

従業者一人ひとりを尊重

委託生産先の管理

サプライチェーン上の生産に携わるステークホルダー（委託生産先など）の従業者に対して、安全で快適、適正な労働条件で働いてもらえるように、委託生産先に対して「アシックス業務委託先管理方針」を提示し、労働環境だけでなく、「人権擁護」「人権侵害の禁止、抑制」を含んだ人権側面への改善への賛同を求めています。私たちは、委託生産先の従業者もアシックスの大切なパートナーとして捉えています。

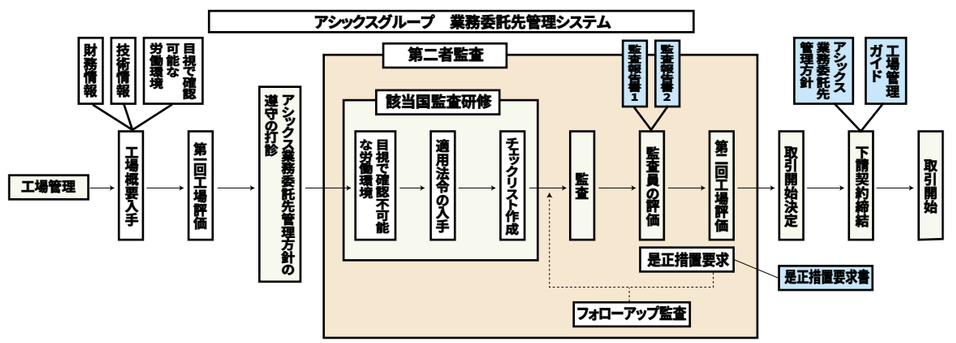
アシックス業務委託先管理方針（抜粋）

1.アシックスは人権、労働、健康、安全、環境に関する最低限の遵守を業務委託先に求める。
2.この方針は、アシックスと方針や価値感が一致する業務委託先と取引を継続する手段とする。
3.アシックスの供給業者や製造業者等の業務委託先はこの方針に基づき事業を運営することを求める。
4.アシックスは方針・基準の遵守を求める。基準に達しない課題は長期的な観点に立ち両社協力して改善を進める。

アシックス業務委託管理先方針（英文）　http://www.asics.co.jp/corp/pdf/csr03.pdf

アシックス業務委託先管理システム

サプライチェーン上の生産に携わるステークホルダーの従業者に対して、当社では、新規に工場と取引を開始する際に「生産能力・品質・価格」「決算書などの財務諸表・信用状態」と並行して「工場の労働条件・環境」に関する調査を行い、委託生産先を選定しています。事前調査で委託先として適切と判断した工場については、さらに所在国の労働関連法、ILO条約の批准の有無などをチェック。監査に必要な適用法令の条項（労働時間、最低賃金など）を抜き出し、その条項を工場が遵守しているか、また当社の「アシックス業務委託先管理方針」を遵守しているか、あるいは遵守する体制が整っているかを監査します。監査は「アシックス工場管理ガイド」の要求事項に基づいて、未整備の部分があれば「是正処置要求書」にて是正するように要求し、望ましい労働条件・環境を整えます。従業者が適正な労働条件で働いてもらえるように、委託生産先と協働して、職場環境の改善に努めています。



アシックス業務委託先管理システム構築の沿革

1998年	「アシックス工場管理規程」、「監視原則」、「チェックリスト」の初版発行
2003年4月	フットウエア事業部に工場管理の専任者配置
2003年12月	「アシックス業務委託先管理方針」施行
2004年4月	工場監査の開始
2004年5月	「工場管理ガイド」正式発行
2004年10月	CSR推進チームの設置
2005年2月	Fair Labor Associationに加盟申請

環境保全に対するアクション ❶

地球環境を守るための企業活動を推進する

当社では、環境保全を重要な社会的責務の一つと考え、全社をあげてアシックス環境方針に基づき、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

●アシックス環境方針

2001年に制定した「アシックス環境方針」は、当社の環境活動のよりどころであり、環境経営に関する意思決定の基準として機能しています。

アシックス環境方針

2001. 8.22制定
2003. 2. 1改定

●理念

アシックスは、環境保全活動が企業の重要な社会的責務の一つであることを認識 し、地球規模での持続的発展が可能な社会を実現するために行動する。

●方針

1.アシックス本社・R&Dセンターにおける環境マネジメントシステムを整備し、権限と責任を明確にし、環境保全の推進を行う。
2.企業活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、グリーン購入、汚染防止など地球環境への負荷の低減に取り組む。
3.企業活動において、環境関連の法律、規制、協定などを遵守するとともに、より一層の環境保全に努める。
4.企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品作り・研究開発に努める。
5.環境監査を実施することにより、環境マネジメントの継続的改善に努める。
6.社内広報活動、環境教育などの機会を通じて環境保全に関する全従業員の意識の向上に努める。

●運用

1.この方針は、アシックス本社・R&Dセンターに適用する。
2.この方針は、アシックス本社・R&Dセンターの全従業員に文書により周知徹底する。
3.この方針は、社外からの要求に応じて公開する。

代表取締役社長　和田　清美

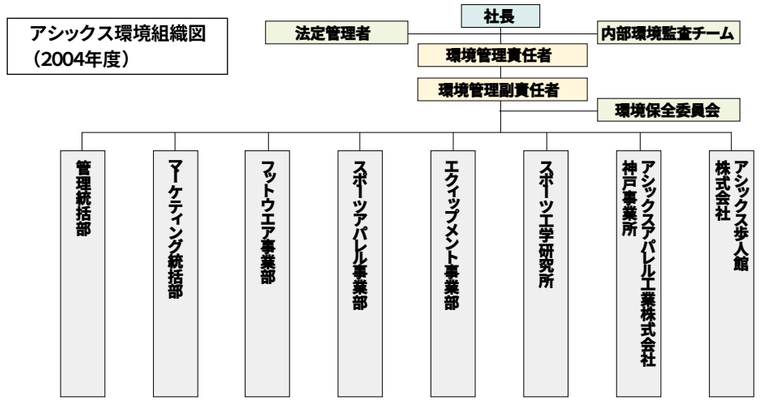
●環境目的および目標（2004年度）

環境負荷の低減を考慮した商品作り、研究開発に努める	・環境配慮型商品の研究開発(210点)
電気使用量の削減	・電気使用量2003年度実績の維持
紙使用量の削減	・紙使用量2003年度比5%削減
廃棄物量の削減	・廃棄量の削減 ・間接的な廃棄物発生量2003年度比20%削減
会議開催頻度の低減	・会議開催頻度および付帯情報の把握
グリーン購入	・グリーン購入対象商品購入の徹底

●組織

社長をトップに、全社を横断する組織体系で取り組みを進めています。

アシックス環境組織図（2004年度）

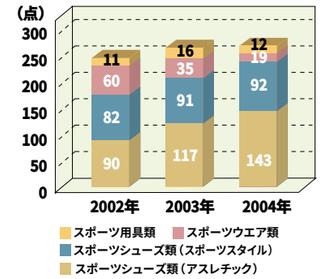


環境保全活動　http://www.asics.co.jp/corp/environment.html

●具体的な活動内容と取り組み実績

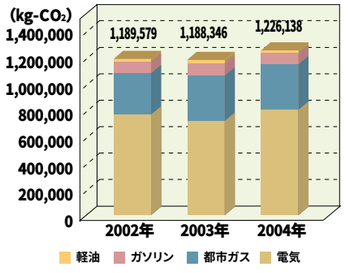
環境配慮商品の研究開発

環境に対する負荷を低減する商品の開発に力を入れており、その数は年々増加しつつあります。今後も、より一層強力に取り組んでいきます。



環境負荷の軽減

アシックスの事業活動が環境に与える主な負荷は、エネルギーの使用による二酸化炭素の排出と、紙や水などの使用による資源消費、さらに事業所から排出する廃棄物などです。当社はこれらの削減に努めています。しかしながら、2004年度のエネルギー使用量による二酸化炭素（CO_2）排出量は、2003年度実績の3.6%増となりました。これは、猛暑による夏季の冷房利用による電気使用量の増加が原因でした。



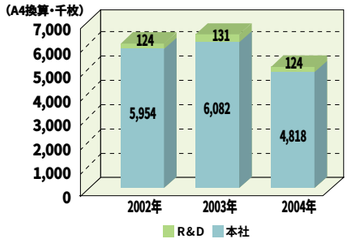
環境マネジメントシステム

本社、R&Dセンター、アシックスアパレル工業株式会社神戸事業所およびアシックス歩人館株式会社の4事業所で、ISO14001の認証を取得しています。

紙使用量の削減

本社およびR&Dセンターで使用するペーパーレス会議の開催を促進し、紙の削減を進めています。2004年度は、前年比で20.5%削減できました。

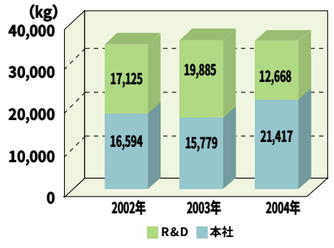
コピー用紙使用枚数



廃棄物発生量の削減

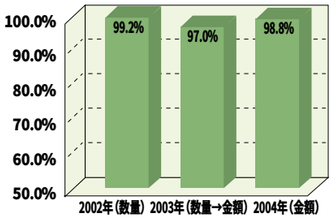
当社から発生する主な廃棄物の内訳は、産業廃棄物としては商品開発の際に使用した材料類。また、そのほかに紙などの事業系一般廃棄物があります。当社はそれらの削減に努めており、2004年度は前年比4.4%削減することができました。

廃棄物発生量



グリーン購入

webオーダーシステムのグリーン購入リストを活用して、文房具や事務所の消耗品についてグリーン購入を進めています。2004年度は、金額ベースで98.8%を占めました。



環境教育

毎年、新入社員や海外からの研修生をはじめとする全社員（常駐業者含む）を対象とした環境一般教育と、内部環境監査員、廃棄物管理担当者などを対象とした環境専門教育・訓練などを実施しています。また、外部研修受講による内部環境監査員（ISO14001:1996規格）は、2004年12月時点で77名登録しています。

環境保全活動のあゆみ

＜社内＞

1991年 2月	JASPO（社団法人　日本スポーツ用品工業協会）包装適正化に対応し、プロジェクト結成
1993年10月	環境保全委員会と専任部門を設置
1995年10月	アシックス環境基本方針制定
1996年 8月	アシックス環境基本方針改定
1997年 8月	「環境ハンドブック」発行
1999年 2月	「環境マニュアル」発行
2000年12月 1日	（JQA-EM1127）R&Dセンター ISO14001認証取得
2002年 3月 8日	（JQA-EM2222）本社　ISO14001認証取得
2003年 2月21日	（JQA-EM2222に統合）本社とR&Dセンターの環境組織を統合

＜社外＞

1997年 6月	グリーン購入ネットワーク入会
1997年 12月	財団法人　ひょうご環境創造協会入会
2001年 4月	神戸地区環境保全協議会入会
2003年12月	ひょうごエコタウン推進会議入会

環境保全に対するアクション ❷

地球環境を守るための製品作りを進める

地球規模での持続的発展が可能な社会を実現するために、企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品作り・研究開発に努めています。

[リサイクル]

50年使ったウイスキー樽を再生

ウエルネス用品「樽ものがたり®」

樹齢100年を超えるオーク材から作られ、50年以上にわたり原酒の熟成に使われ続けたウイスキー樽。「樽ものがたり」は、その廃材を丁寧に削り、磨き上げ、ウエルネス用品に仕上げたものです。サントリーとの共同開発によって誕生しました。

再生ポリエステルを使用

練習用野球ユニフォーム「ピカイチ」

練習用野球ユニフォーム「ピカイチ」はポリエステル糸にペットボトル再生素材を使用し環境負荷の低減を図った製品です。

そのうえ生地が厚く破れにくくなっており、汚れが落ちやすくなる加工も施し、洗濯水、洗剤の減少にも配慮しました。

ペットボトル再生素材を使用

「エコ・スポーツ・ネット」

ネット本体部の素材糸に、ペットボトル・フィルムリサイクルシステムで生まれた東レの「再生ポリエステル繊維リサイクロン®」を使用しています。省資源と廃棄物の削減に寄与するだけでなく、競技用ネットの材料として主に使われているビニロン繊維などと比較して、同等以上の強度と耐久性を実現しました。

[再生可能]

繰り返し再生できる生地を採用

学校体育用ウエア「エコトレ® ER」

何度でも再生できるポリエステルを使用した学校体育用ウエア「エコトレER」を開発しました。お客様の卒業後に回収して、再び「エコトレER」に生まれ変わります。これによってごみの削減や省資源化、省エネルギーにつながることから、財団法人日本環境協会から、エコマークの認定を受けています。

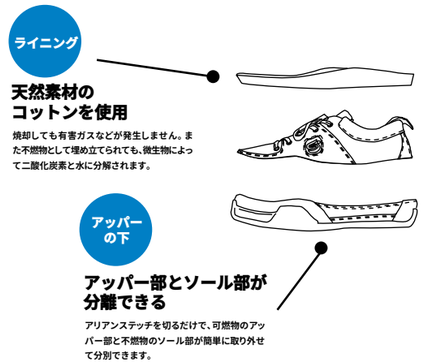
こうして再生します

[分別廃棄・生分解性]

徹底した分別廃棄を可能に

スポーツスタイルシューズ「SEED®」

ソールとアッパーの間のハサミのマークと切り取り線が印象的な「SEED」は、分別廃棄しやすい構造と、天然素材のヘンプや天然ゴムなど自然環境のなかで生分解しやすいナチュラルな素材にこだわって設計・製造しました。



[環境負荷軽減]

廃材や再生材を活かす

タウンシューズ「ペダラ®」

環境負荷を総合的に軽減するため、次のような工夫を施しています。

- 甲革に植物タンニンを主成分とするなめし材を使用
- ミッドソール・中敷に裁断片を混入した再生EVAを使用
- 裏材に再生ペットボトル繊維を使用
- 人にやさしい環境配慮型商品としてエコプランマークを使用しています。

※エコプランマークは当社独自の基準による環境配慮型商品に用いています。

これからのアシックス

NEXT STAGEへ

「ＣＳＲ」と言う言葉に対する国内外の企業の取り組みはさまざまです。その取り組みは、各企業の文化や考え方によって現れる、企業から社会へのひとつの答えです。

今回皆様にお読みいただいた「asics CSR REPORT 2005」は、現時点での私たちの正直な姿です。このレポートでは私たちが企業としてだけではなく、社会、地球環境、私たちに関わりのある人々（ステークホルダー）に対しての取り組みをご覧いただきました。まだまだ、書ききれない、ご報告出来ていない課題はたくさんあります。そして、まだ私たち自身が見えていなかったり、気付いていなかったりする課題もあります。それらを日々補い、改善し、持続して社会に貢献していけるようにCSR活動を進めてまいります。

そのためには、新しい取り組みや考え方を取り込んでいくことで「変えていかなければならないもの」も生まれてきます。しかし、反面今日に至るまでの先人たちが残し、ＤＮＡとして私たちの中に生き続けている「変わらないもの」も大切にしていかなければならないと考えています。

色々な国で、色々な人たちに喜んでいただくこと。それは、商品をお使いいただくだけでなく、私たちの企業に関わりを持たれた人たちにも喜んでいただくこと。それが、私たちに求められることと考えています。

NEXT STAGEは私たちの前に続きます。皆様のご支援、ご助言、ご提言なしには、次のステップは遠く、高いものになります。そのためにも、皆様にアシックスをよく知っていただき、理解していただくよう努めてまいります。

2005年6月
株式会社アシックス
常務取締役管理統括部長
（ＣＳＲ担当）　**爲定　涼次**

ＣＳＲレポートプロジェクトスタッフから

お読みいただいた「asics CSR REPORT 2005」はいかがでしたでしょうか？

約半年の間、社内の各部署から１５名のスタッフが集まり、外部スタッフの協力を得ながらこのレポートの作成をおこないました。出来るだけ自らの力で私たちの飾らない姿を伝えたいと言うことで手作りに近いレポートを見ていただくことを心がけました。

来年度、よりよいレポートをお届けするために、忌憚ないご意見をお寄せ下さいますようお願いいたします。